

JEEF の トピック

JEEF の活動の最新注目トピックをご紹介します! 今季も皆さまからのご寄付や企業との協働により、全国各地に、「体験と対話を重視した環境教育」を届けることができました。

夏・秋



当日の様子はこちらから（動画）



J E E F では、S O M P O 環境財団の運営する「C S O ラーニング制度」にて、国内のインター
ンシップ受け入れ団体となるだけでなく、インドネシアにおいて
もプログラムの企画・運営を担当しています。

9月19日、大阪・関西万博インドネシア・パビリオンにて開かれた「木を植える人を育てる・イン

「ドネシア×日本環境インターング・シップの挑戦」では、環境人材育成をテーマにインドネシアと日本のCSOラーニング制度の修了生が登壇しました。パネルディ

スカツシヨンでは同制度の修了生でもある事務局長・加藤がモデレーターを務め、ユース世代が環境問題にどう向き合い、未来を切り拓くか、活発な議論が交わされました。

ネシアと日本の架け橋となり、環境人材育成の輪を広げる一助となるよう取り組んでまいります。

馬市役所)の案内のと、フィールド視察と現地の方との交流を通して、海洋プラスチック問題の現状を学びました。ごみが堆積する海岸の視察やクリーンアップ、漂着ごみの分別・処理を行う施設の見学、山と海の環境保全の取り組みの視察を行いました。

た現状を含め、これからも海洋プラスチック問題について伝えるプログラムを実施し、多くの方の心を動かし、行動の変化になげられるような環境教育を提供できるよう努めます。

ログラム」を2021年より展開しています。その一環として、ジョンソン株式会社の社員向けに、日本で最も多く海洋ごみが漂着するといわれる場所・長崎県対馬での2泊3日のツアーレ

対馬で海洋プラスチック
ク視察ツアーを実施



JEEF の HP にて、ツアーの様子を詳しくレポートしています！ぜひご覧ください。

実施しました。

川口幹子氏（株式会社ブルー

オーシャン対馬)、前田剛氏(対

! 誰もが海水浴を楽しめる未来へ！



参加者もサポーターも一緒に海遊びます！

鹿児島県・重富海岸の「ユーバーサルビーチプロジェクト」は、障がいの有無に関わらず、誰もが安心して海を楽しめることを目的に、くすの木自然館を中心に実施しています。今回、J E E Fも参画し、2日間のイベントを開催しました。

今回の参加者は、義足の方、車椅子の小中学生、視覚障がいの方、脳出血による麻痺のある方など5組。海で遊んだことがない・浜辺にも行つたことがない方や、後天的な理由から以前のように海には行けないと諦めてしまった方もいました。ドキドキし

準備がかかせません。車椅子での移動のための砂浜整備や、一人ひとりに合わせた水陸両用の車椅子などの道具、着替え場所の用意。サポートの募集も必要です。それでも、「海で遊ぶ」という選択肢を諦めさせないために、J E E Fはこれからもこのプロジェクトに参画していきます。

ながら海に入ると、水の冷たさに声をあげたり、波にゅられて体を動かしたり、全身で海を感じて誰もが安心して海を楽しめることを目的に、くすの木自然館を中心実施しています。今回、J E E Fも参画し、2日間のイベントを開催しました。

そんな時間の裏には、地道な準備がかかせません。車椅子での移動のための砂浜整備や、一人ひとりに合わせた水陸両用の車椅子などの道具、着替え場所の用意。サポートの募集も必要です。それでも、「海で遊ぶ」という選択肢を諦めさせないために、J E E Fも参画していきます。

はじめの訪問先は川崎市にあるオーガニックの花農家「吉垣花園」。風が心地よい里山を歩き、一本一本表情の違うお花から心惹かれる一輪を選んで、自分でokeのブーケを作りました。午後は国際自然大学校の協力のもと「黒川青少年野外活動センター」でのB B Q。食材には地物野菜とジビエを用意し、食を通して自然とのつながりを感じました。

最後には、「わたしが明日からできる、地球にもやさしいこと」をテーマに、参加者同士でおしゃべりのひととき。日々の暮らし

! 大人のプチ遠足 ♪花とジビエとサステナビリティ♪

首都圏で働く大人のウエルビーディングをテーマにイベントを開催しました。日々のストレス

社会から少し離れて、自然の中で心と体をゆるめる1日を通して”人と自然の関わり”を考えました。

参加者からは「楽しく無理のない範囲で自分にできることを始めてもいいとわかった。」との感想をいただきました。

ははじめの訪問先は川崎市にあるオーガニックの花農家「吉垣花園」。風が心地よい里山を歩き、一本一本表情の違うお花から心惹かれる一輪を選んで、自分でokeのブーケを作りました。午後は国際自然大学校の協力のもと「黒川青少年野外活動センター」でのB B Q。食材には地物野菜とジビエを用意し、食を通して自然とのつながりを感じました。

最後には、「わたしが明日からできる、地球にもやさしいこと」をテーマに、参加者同士でおしゃべりのひととき。日々の暮らし



緑に囲まれ、お花に触れてリラックス